

海外における家畜伝染病の発生状況

令和5年4月20日
農林水産省消費・安全局動物衛生課
国際衛生企画班

高病原性鳥インフルエンザの発生状況(2022年7月以降)

■ :2022年7月以降に継続発生
または新規発生した国



《ヨーロッパ》					
アイスランド	H5N1(高)	[2022.10.17]	ドイツ	H5N1(高)	2023.3.14
アイルランド	H5N1(高)	2022.11.18			[2023.3.24]
		[2023.3.14]	ノルウェー	H5N1(高)	2022.11.10
イタリア	H5N1(高)	2022.3.27			[2022.11.9]
		[2023.3.20]		H5N5(高)	[2022.10.3]
英国	H5N1(高)	2023.3.2		H5(高)	[2022.12.14]
		[2023.3.25]	ハンガリー	H5N1(高)	2023.3.24
オランダ	H5N1(高)	2023.1.26			[2023.3.4]
		[2023.1.16]	フィンランド	H5N1(高)	[2022.8.16]
北マケドニア	H5N1(高)	[2022.11.3]		H5N5(高)	[2022.9.17]
スイス	H5N1(高)	2023.3.19		H5N1(高)	2022.10.2
		[2023.3.23]	フェロー諸島	H5N1(高)	[2022.9.22]
スウェーデン	H5N1(高)	2023.3.20	フランス	H5N1(高)	2023.3.10
		[2023.3.21]			[2023.3.22]
		[2023.1.16]	ブルガリア	不明(高)	2022.10.20
スペイン	H5(高)	2023.2.4		H5N1(高)	2023.1.24
	H5N1(高)	[2023.3.16]		H5N1(高)	2023.2.21
スロベニア	H5N1(高)	2023.2.24	ベルギー	H5N1(高)	[2023.3.15]
		[2023.3.18]			[2023.3.1]
セルビア	H5N1(高)	[2023.3.23]		H5(高)	
デンマーク	H5N1(高)	2023.3.16			
		[2022.2.10]			

《アジア》		
日本	H5N1(高)	2023.3.28
		[2023.3.27]
中国	H5N1(高)	[2022.7.9]
韓国	H5N1(高)	2023.3.9
		[2022.10.20]
台湾	H5N1(高)	2023.3.31
	H5N2(高)	2023.2.8
	H5N5(高)	2023.1.18
香港	H5N1(高)	[2022.12.5]
イスラエル	H5N1(高)	2023.1.11
		[2022.1.19]
フィリピン	H5N1(高)	2022.12.16
ベトナム	H5N1(高)	2022.10.3
インド	H5N1(高)	2023.2.2
ネパール	H5N1(高)	2023.2.23
		[2023.2.9]
カンボジア	H5N1(高)	[2023.2.24]

《南北アメリカ》		
米国	H5N1(高)	2023.3.23
		[2023.1.25]
カナダ	H5N4(高)	2022.9.10
	H5N1(高)	2023.3.24
		[2023.1.1]
メキシコ	H5(高)	[2023.1.11]
	H5N1(高)	2023.1.10
		[2022.12.6]
パナマ	H5N1(高)	[2023.3.10]
エクアドル	H5N1(高)	2023.2.28
		[2023.1.12]
コロンビア	H5N1(高)	2023.2.20
		[2023.3.3]
ベネズエラ	H5N1(高)	[2022.11.17]
ペルー	H5(高)	2023.2.15
		[2022.12.10]*
ホンジュラス	H5N1(高)	[2023.2.22]
チリ	H5N1(高)	2023.3.22
	H5(高)	[2023.3.19]
コスタリカ	H5(高)	[2023.2.16]
ウルグアイ	H5(高)	2023.3.11
		[2023.3.14]
グアテマラ	H5N1(高)	[2023.1.26]
アルゼンチン	H5(高)	2023.3.21
		[2023.3.21]
ボリビア	H5N1(高)	2023.2.3
		[2023.2.1]
キューバ	H5N1(高)	[2023.2.4]*

《ロシア・NIS諸国》		
ロシア	H5N1(高)	2023.1.26
		[2023.3.15]

《アフリカ》		
南アフリカ共和国	H5N1(高)	2023.1.6
		[2022.12.1]
	H5N2(高)	2022.11.29
ニジェール	H5N1(高)	2022.12.18
ナイジェリア	H5N1(高)	2023.3.17
セネガル	H5N1(高)	2023.3.18
		[2023.3.8]

2023年3月31日現在

出典:OIE等

※日付は発生日又は検体回収日に基づく
※[]は野鳥及び愛玩鳥等における発生を示す
※本図は発生の有無を示したもので、
その後の清浄性確認については記載していない
※型別に最新の発生事例を記載
※()は病原性
※韓国の野鳥については最新の情報更新が10月20日
※白色の国、地域であっても継続発生で報告されていない可能性もある

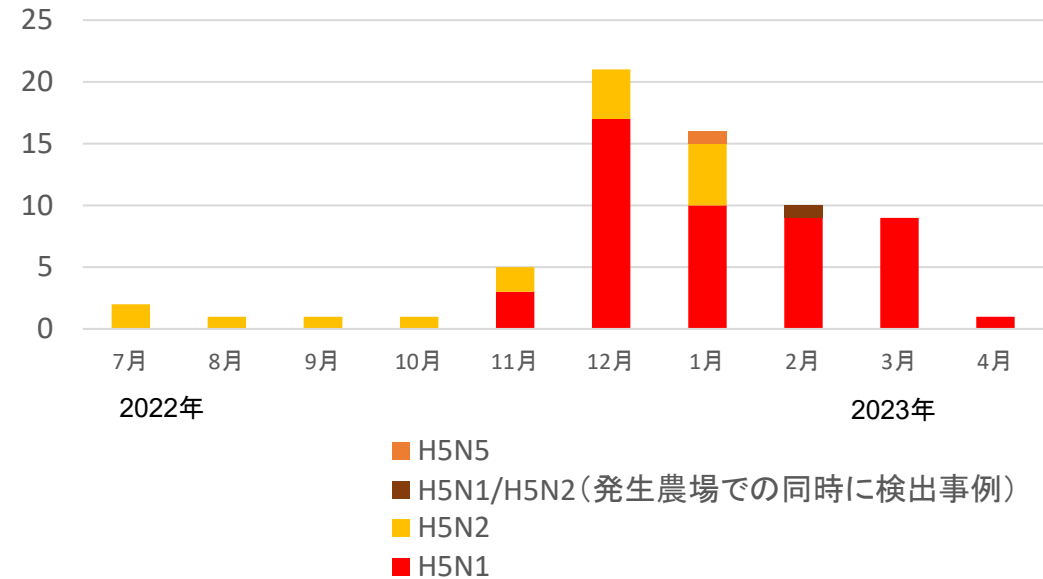
台湾の家きんにおける高病原性鳥インフルエンザの発生状況(2022年7月以降)

2023年4月18日時点

発生件数 **67件**

2022年7月以降の発生件数

(検体回収日に基づく)



※食鳥処理場における採材・検出を含む

※台湾では、2022年7月以前から高病原性鳥インフルエンザ(H5N2等)の継続発生が確認されている。

※嘉義県の肉用ガチョウでH5N5亜型の感染が確認された。(2023年1月)

韓国の家きんにおける高病原性鳥インフルエンザの発生状況 (2022年10月以降)

2023年4月18日時点
農林水産省動物衛生課

出典: 韓国農林畜産食品部

月	事例数	殺処分羽数
10月	3	約6万
11月	24	約142万
12月	29	約188万
1月	7	約47万
2月	6	約39万
3月	2	約4万
4月	4	約8万
計	75	約434万

※農林水産省にて発生報告ごとに累計 ※予防的殺処分等は含まず
※事例数等は病原性が確定した事例のみ記載

江原道				
2022.11.14	原州市	採卵鶏	約6.7万羽	H5N1

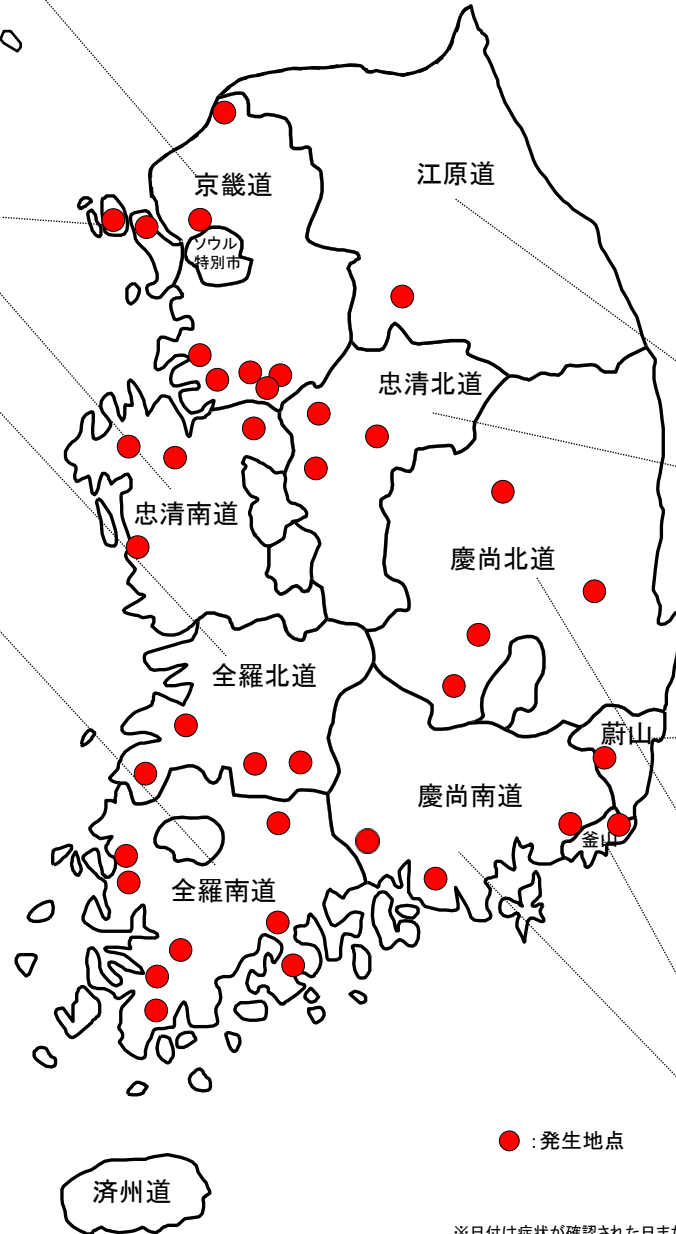
忠清北道				
2022.10.26	鎮川郡	肉用アヒル	約1.8万羽	H5N1
2022.11.3	清州市	肉用アヒル	約1.2万羽	H5N1
2022.11.4	清州市	肉用鶏	約5.6万羽	H5N1
2022.11.4	清州市	肉用アヒル	約1.3万羽	H5N1
2022.11.8	清州市	ウスラ	約49.8万羽	H5N1
2022.11.9	清州市	肉用アヒル	約2.2万羽	H5N1
2022.11.10	清州市	種アヒル	約0.4万羽	H5N1
2022.11.12	忠州市	肉用アヒル	約0.7万羽	H5N1
2022.11.17	清州市	種アヒル	約0.8万羽	H5N1

蔚山広域市				
2022.11.28	蔚山郡	採卵鶏	約6.5万羽	H5N1

慶尚北道				
★2022.10.17	醴泉郡	種アヒル	約1.0万羽	H5N1
2022.10.21	醴泉郡	肉用種鶏	約3.2万羽	H5N1
2022.12.21	星州郡	採卵鶏	約6.6万羽	H5N1
2022.12.23	漆谷郡	採卵鶏	約26.3万羽	H5N1
2023.2.27	尚州市	肉用鶏	約8.1万羽	H5N1

釜山広域市				
2022.12.19	機張郡	地鶏	220羽	H5N1

慶尚南道				
2022.12.12	晋州市	肉用アヒル	約1.6万羽	H5N1
2022.12.21	河東郡	肉用アヒル	約2.9万羽	H5N1
2023.1.1	金海市	採卵鶏	約12.9万羽	H5N1



● : 発生地点

京畿道				
2022.11.15	龍仁市	肉用種鶏	約4.2万羽	H5N1
2022.11.16	華城市	肉用種鶏	約2.4万羽	H5N1
2022.11.17	平沢市	採卵鶏	約0.6万羽	H5N1
2022.11.23	平沢市	採卵鶏	約3.5万羽	H5N1
2022.11.26	利川市	採卵鶏	約1.7万羽	H5N1
2022.11.29	安城市	肉用アヒル	約1.2万羽	H5N1
2022.12.13	安城市	採卵鶏	約3.2万羽	H5N1
2023.1.2	金浦市	採卵鶏	約8.0万羽	H5N1
2023.1.2	漣川郡	採卵鶏	約9.3万羽	H5N1
2023.1.7	高陽市	採卵鶏	約8.0万羽	H5N1
2023.1.11	平沢市	肉用鶏	約4.6万羽	H5N1
2023.2.21	漣川郡	採卵鶏	約4.3万羽	H5N1

仁川広域市				
2023.3.8	江華郡	地鶏	8羽	H5N1

忠清南道				
2022.11.9	天安市	種アヒル	約0.8万羽	H5N1
2022.11.26	洪城市	觀賞用鳥類	154羽	H5N1
2022.12.26	礼山郡	採卵鶏	約11.5万羽	H5N1
2023.2.21	瑞山市	ウスラ	約11万羽	H5N1

全羅北道				
2022.11.5	淳昌郡	採卵鶏	約15.5万羽	H5N1
2022.12.2	高敞郡	肉用アヒル	約0.7万羽	H5N1
2022.12.25	南原市	肉用アヒル	約1.2万羽	H5N1
2022.12.30	井邑市	肉用アヒル	約1.1万羽	H5N1
2023.2.21	井邑市	地鶏	約4.1万羽	H5N1
2023.2.23	井邑市	地鶏	約3.7万羽	H5N1
2023.2.23	井邑市	採卵鶏	約8.3万羽	H5N1
2023.3.9	井邑市	肉用アヒル	約4.0万羽	H5N1

全羅南道				
2022.11.15	長興郡	肉用アヒル	約1.1万羽	H5N1
2022.11.22	羅州市	肉用アヒル	約7.9万羽	H5N1
2022.11.26	高興郡	肉用アヒル	約2.6万羽	H5N1
2022.11.28	羅州市	採卵鶏	約5.5万羽	H5N1
2022.11.28	羅州市	肉用アヒル	約4.6万羽	H5N1
2022.12.1	羅州市	肉用アヒル	約1.4万羽	H5N1
2022.12.2	羅州市	肉用アヒル	約2.0万羽	H5N1
2022.12.3	務安郡	種アヒル	約0.8万羽	H5N1
2022.12.3	咸平郡	採卵鶏	約41.7万羽	H5N1
2022.12.4	咸平郡	採卵鶏	約8.0万羽	H5N1
2022.12.5	羅州市	肉用アヒル	約1.2万羽	H5N1
2022.12.8	務安郡	種アヒル	約0.6万羽	H5N1
2022.12.8	谷城郡	肉用アヒル	約1.3万羽	H5N1
2022.12.8	靈岩郡	採卵鶏	約9.1万羽	H5N1
2022.12.9	務安郡	種アヒル	約0.9万羽	H5N1
2022.12.10	靈岩郡	肉用鶏	約12.0万羽	H5N1
2022.12.11	務安郡	肉用アヒル	約1.5万羽	H5N1
2022.12.11	靈岩郡	肉用アヒル	約2.9万羽	H5N1
2022.12.11	靈岩郡	採卵鶏	約3.9万羽	H5N1
2022.12.12	咸平郡	採卵鶏	約5.4万羽	H5N1
2022.12.12	海南郡	肉用アヒル	約3.6万羽	H5N1
2022.12.18	咸平郡	種アヒル	約1.6万羽	H5N1
2022.12.21	羅州市	肉用アヒル	約1.4万羽	H5N1
2022.12.22	谷城郡	採卵鶏	約5.3万羽	H5N1
2023.1.5	靈岩郡	肉用アヒル	約2.5万羽	H5N1
2023.1.10	宝城郡	肉用アヒル	約1.4万羽	H5N1
2023.4.2	羅州市	肉用アヒル	約1.5万羽	H5N1
2023.4.10	羅州市	肉用アヒル	約3.4万羽	H5N1
2023.4.14	靈岩郡	肉用アヒル	約1.4万羽	H5N1
2023.4.14	長興郡	肉用アヒル	約1.5万羽	H5N1

※日付は症状が確認された日または検体採取日 ※赤字は更新箇所 ※*は病原性検査中事例 ※★は初発生日(2022年10月17日)
※N型未記載は、未公表又は未確定。

アフリカ豚熱の発生拡大状況(2007年～)

中米

初発年月・国名

2021年4月	ドミニカ共和国
2021年8月	ハイチ

ロシア(2007年11月～)

欧州

初発年月・国名

2007年4月	ジョージア
2007年8月	アルメニア
2008年1月	アゼルバイジャン
2012年7月	ウクライナ
2013年6月	ベラルーシ
2014年1月	リトアニア
2014年2月	ポーランド
2014年6月	ラトビア
2014年9月	エストニア
2016年10月	モルドバ
2017年6月	チェコ
2017年7月	ルーマニア
2018年4月	ハンガリー
2018年8月	ブルガリア
2018年9月	ベルギー 2020年10月に清浄化宣言
2019年7月	スロバキア
2019年7月	セルビア
2020年2月	ギリシャ
2020年9月	ドイツ
2021年12月	北マケドニア
2022年1月	イタリア

アジア

初発年月・国名

2018年8月	中国
2019年1月	モンゴル
2019年2月	ベトナム
2019年3月	カンボジア
2019年5月	香港
2019年5月	北朝鮮
2019年6月	ラオス
2019年7月	フィリピン
2019年8月	ミャンマー
2019年9月	インドネシア
2019年9月	韓国
2019年9月	東ティモール
2020年1月	インド
2021年2月	マレーシア
2021年5月	ブータン
2021年11月	タイ
2022年3月	ネパール
2023年2月	シンガポール

オセアニア

初発年月・国名

2020年3月	バプアニューギニア
---------	-----------

2007年
アフリカから侵入

出典: OIE等

2023年2月21日時点

アジアにおけるアフリカ豚熱の発生状況

2023年4月13日時点

■：2018年8月以降発生があった国、地域

インド
初発生：2020年1月26日
豚飼養頭数：約882万8127頭

モンゴル
初発生：2019年1月9日
豚飼養頭数：約3万577頭

北朝鮮
初発生：2019年5月23日
発生数：豚1件
豚飼養頭数：約226万2965頭

ブータン
初発生：2021年5月6日
豚飼養頭数：約2万2954頭

ネパール
初発生：2022年3月19日
豚飼養頭数：約158万8838頭

ミャンマー
初発生：2019年8月1日
豚飼養頭数：約687万頭

タイ
初発生：2021年11月25日
豚飼養頭数：約774万3876頭

ラオス
初発生：2019年6月2日
豚飼養頭数：約446万8192頭

カンボジア
初発生：2019年3月22日
豚飼養頭数：約207万3815頭

インドネシア
初発生：2019年9月4日
豚飼養頭数：約801万1776頭

マレーシア
初発生：2021年2月8日
豚飼養頭数：約185万7839頭

東ティモール
初発生：2019年9月9日
豚飼養頭数：約24万6629頭

シンガポール
初発生：2023年2月5日

韓国
初発生：2019年9月16日
豚飼養頭数：約1121万6566頭

中国
初発生：2018年8月3日
豚飼養頭数：約4億4922万頭

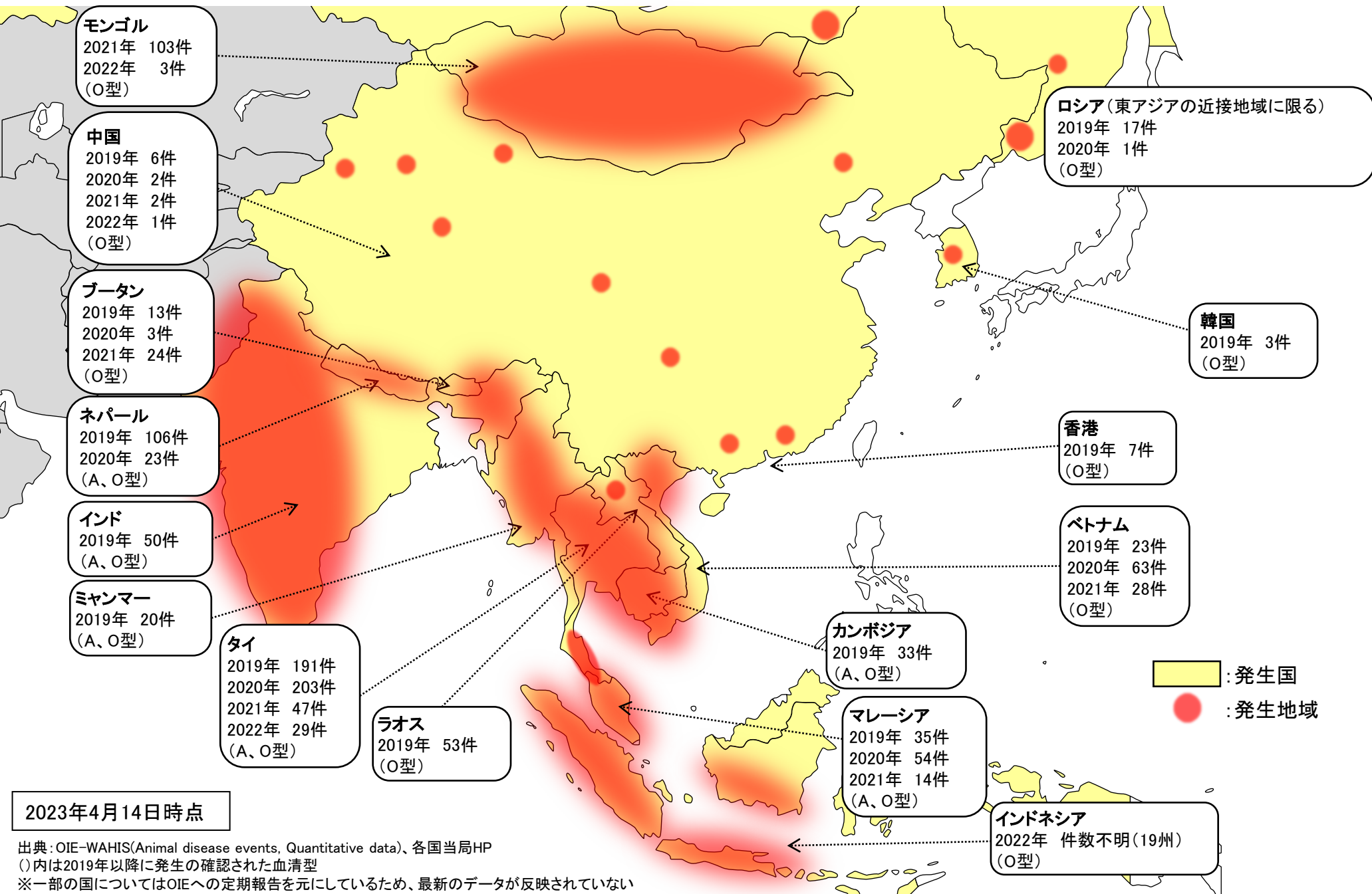
香港
初発生：2019年5月2日
豚飼養頭数：約11万1493頭

フィリピン
初発生：2019年7月25日
豚飼養頭数：約994万3119頭

ベトナム
初発生：2019年2月1日
豚飼養頭数：約2355万3400頭

出典：OIE-WAHIS(Animal disease eventsおよびQuantitative data)、各国当局HP
発生日：OIE報告による発生が確認された日
飼養頭数：FAO統計(2021)による

アジアにおける口蹄疫の発生状況（2019年以降）



【飼養豚での事例】

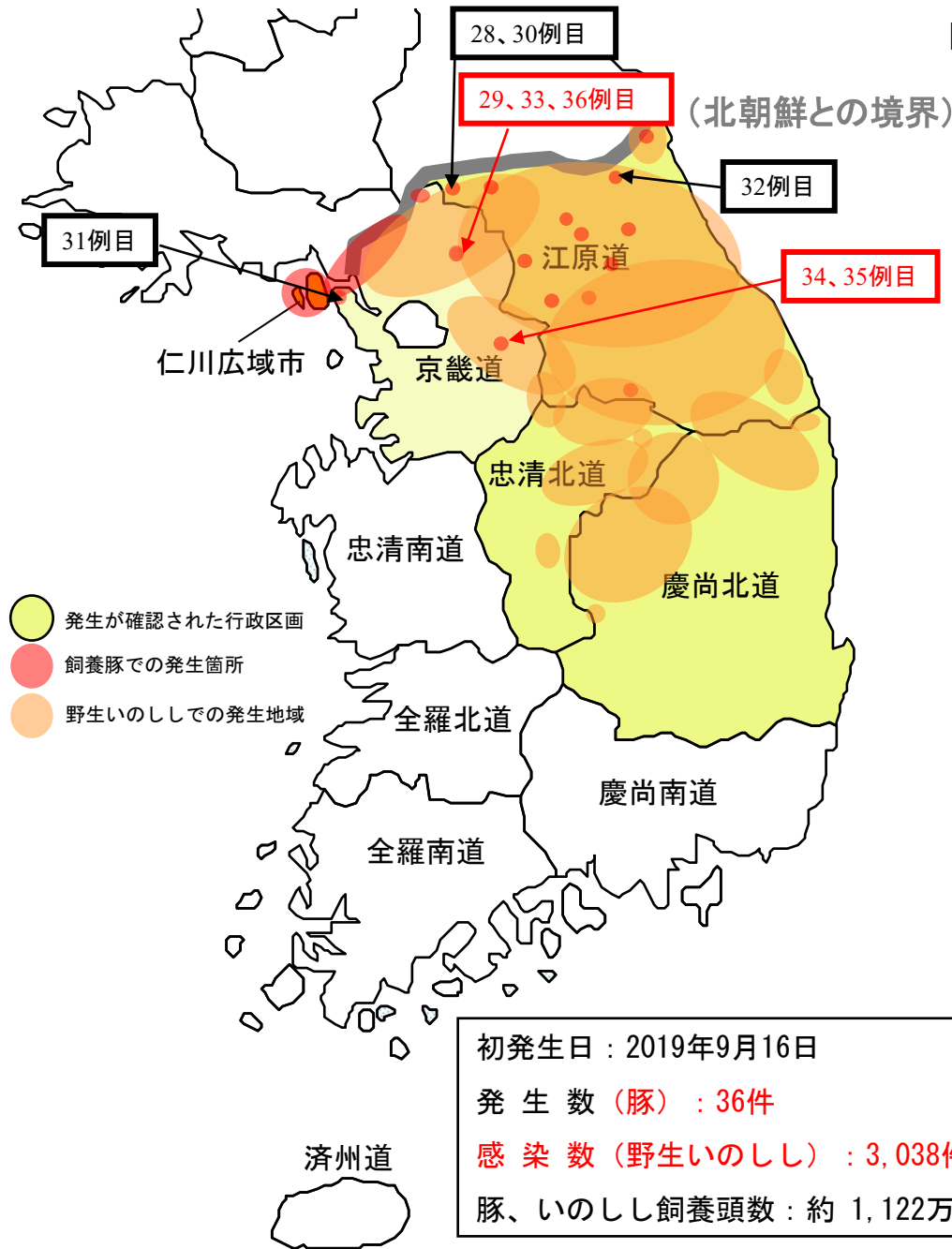
事例	発生日	発生地域
1	2019/9/16	京畿道坡州市
2	2019/9/17	京畿道漣川郡
3	2019/9/23	京畿道金浦市
4	2019/9/23	京畿道坡州市
5	2019/9/24	仁川広域市江華郡
6	2019/9/25	仁川広域市江華郡
7	2019/9/25	仁川広域市江華郡
8	2019/9/26	仁川広域市江華郡
9	2019/9/26	仁川広域市江華郡
10	2019/10/1	京畿道坡州市
11	2019/10/1	京畿道坡州市
12	2019/10/2	京畿道坡州市
13	2019/10/2	京畿道金浦市
14	2019/10/9	京畿道漣川郡
15	2020/10/8	江原道華川郡
16	2020/10/9	江原道華川郡
17	2021/5/4	江原道寧越郡
18	2021/8/7	江原道高城郡
19	2021/8/15	江原道麟蹄郡
20	2021/8/25	江原道洪川郡
21	2021/10/5	江原道麟蹄郡
22	2022/5/26	江原道洪川郡
23	2022/8/18	江原道楊口郡
24	2022/9/18	江原道春川市
25	2022/9/19	江原道春川市
26	2022/9/28	京畿道金浦市
27	2022/9/28	京畿道坡州市
28	2022/11/9	江原道鉄原郡
29	2023/1/6	京畿道抱川市
30	2023/1/11	江原道鉄原郡
31	2023/1/22	京畿道金浦市
32	2023/2/11	江原道楊陽郡
33	2023/3/19	京畿道抱川市
34	2023/3/29	京畿道抱川市
35	2023/3/31	京畿道抱川市
36	2023/4/14 (公表日)	京畿道抱川市

韓国におけるアフリカ豚熱の発生状況

2023年4月14日時点

【野生イノシシでの事例】(単位：件)

京畿道	坡州市	100
	漣川郡	418
	抱川市	94
	加平郡	62
	鉄原郡	37
江原道	華川郡	425
	春川市	222
	楊口郡	81
	麟蹄郡	158
	高城郡	12
	寧越郡	223
	襄陽郡	36
	江陵市	108
	洪川郡	63
	平昌郡	43
	束草市	1
	旌善郡	169
	横城郡	57
	三陟市	84
忠清北道	原州市	66
	太白市	13
	東海市	8
	丹陽郡	137
	堤川市	74
	報恩郡	73
	槐山郡	6
慶尚北道	陰城郡	1
	忠州市	93
	尚州市	63
	蔚珍郡	29
	聞慶市	54
	栄州市	5
	醴泉郡	7
	奉化郡	13
	盈徳郡	3
合計		3,038



初発生日：2019年9月16日

発生数(豚)：36件

感染数(野生いのしし)：3,038件

豚、いのしし飼養頭数：約 1,122万頭

※ 韓国当局公表資料等の情報を元に作成
飼養頭数：FAO統計(2021)による
赤字は更新箇所